

紫峰の風

shihou no kaze

筑波大学

University of Tsukuba

第19号 2021年2月

「紫峰の風」は学生生活の様子や活動の報告を紫峰会基金協力者の皆様にお届けする広報誌で、紙面の企画や記事の取材等は学生広報会議や広報部の学生が実施しています。この名称には「筑波の峰から吹き降りる風に、我々の活動への想いを乗せて、全国の皆さまのもとへお届けする」という意味が込められています。



写真左上から：研修会用種目ドッジボール／学生委員会での運営指導の様子／
研修会用種目：リレー／研修会用種目：アルティメット2020(令和2)年11月15日撮影

スポーツ・デー学生委員会研修会を終えて

皆様こんにちは。第44代スポーツ・デー学生委員会委員長の寺嶋仁志です。今年度はコロナウイルスの影響により、春秋ともにスポーツ・デーを開催することができませんでした。そのため、次年度の運営が円滑に行えるように、11月15日にスポーツ・デー学生委員会内での運営研修会を行いました。

ドッジボールやリレーなどの種目をスポーツ・デー同様に企画・運営をし、当日は2・3年生19名に対し、1年生は45人も参加しました。小さい規模ではありましたがとても有意義な研修となりました。

予定通りに事が進まず、非常にづらい思いをした1年間でした。そのような中で、多くの方々にご支援・ご協力していただいたことで、第44代スポーツ・デー学生委員会を締めくくれたことには本当に感謝

しています。誠にありがとうございました。
私の任期はこれで終了となります。後輩たちにはスポーツ・デーの更なる発展のため、努めてほしいと思います。今後とも変わらぬご支援よろしくお願いいたします。
(寄稿/第44代スポーツ・デー学生委員会委員長 寺嶋仁志・数学3年)

今後の主な予定(変更になる場合があります)

春季休業	2月17日～4月4日
同(東京キャンパス・夜間)	2月4日～4月5日
卒業式・大学院学位記授与式	3月25日
同(東京キャンパス・夜間)	3月27日
入学式	4月5日
同(東京キャンパス・夜間)	4月3日
新入生歓迎本祭	4月5日
新入生オリエンテーション(学群)	4月5日～7日
新入生オリエンテーション(大学院)	4月5、6日
同(東京キャンパス・夜間)	4月3日
授業開始(学群)	4月8日
授業開始(大学院)	4月7日
同(東京キャンパス・夜間)	4月6日
春季スポーツ・デー	5月15、16日(予定)

-内容-	
キャンパスニュース	1、2頁
1年間を振り返って	3頁
全代会、文サ連、芸サ連、体育会活動紹介	4頁
留学情報	5頁
大学院進学報告	6頁
課外活動団体一覧	7頁
学生相談室から、卒業式・入学式のご案内	7頁
桐の葉日記	8頁

筑波大学紫峰会基金に寄附して下さった皆さまへ

皆さまからいただいたご寄附の全額を課外活動団体援助金等として、使用させていただいております。援助金のおかげで活動にかかる負担が減り、学業や課外活動をさらに充実することができました、大変感謝しております。

今後も我々の活動を見守ってください。

課外活動団体一同

キャンパスニュース

リーダー研修会

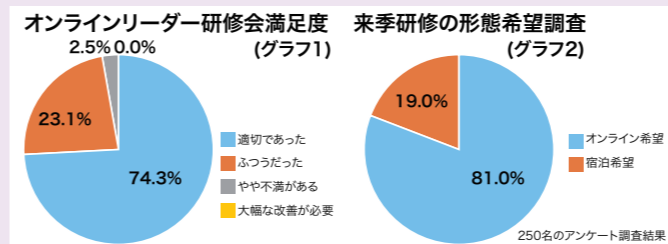
毎年、リーダー研修会実行委員会では所属サークルを支えている文化系サークル連合会、芸術系サークル連合会、体育会および学生生活課(課外・研修施設担当、紫峰会業務推進室)の役割を知ってもらおうと同時にその交流を図るため、赤城山の研修施設にて一泊二日でリーダー研修会を実施しています。

しかしながら今年度はコロナ禍に鑑み、急遽筑波大学のmanabaというツールを用いたオンラインでの実施としました。オンラインリーダー研修会では例年通り講師を招き、コミュニケーションについての講義を行っていただき、また、各系において資料をオンデマンド型で掲載し、その研修を行いました。

また、オンラインにおける学業、課外活動の実施状況を調査し、その対策や意見を共有できるようにアンケートを参加学生250人に回答していただきました。リーダー研修会のオンライン化は多くの労力を要しましたが、肯定的な意見は95%以上を占め(グラフ1)、たくさんのご助力もあって無事完遂したと思っています。留意したいのはオンライン化に伴い、その研修としての機能を引き継げたのか、また、来年度からどのような形態で実施していくのかといった点であると思います。確認しておくべきことはリーダー研修会は学生の自主性により成り立つということです。つまり、学生の満足度をもっとも重視すべき点であると考えています。

今年度は宿泊計画から急遽オンライン化に踏み切る形となりましたが、来年度以降も感染症対策、予算の面などでリーダー研修会の在り方を考え直していく必要があると考えています。そのうえで本年度のオンラインでの実施は予算面では大幅に削減が可能となり、感染症対策を考慮して非常に有効な手段であると思います。来年度もオンラインにおける実施を望む声は多く(グラフ2)、その在り方を引き続き検討していきたいと思っています。

(寄稿/2020年度課外活動団体リーダー研修会実行委員会実行委員長 林利有樹 資源2年)



2020年筑波大学体育会納会を終えて(動画配信)



第45代体育会執行委員会委員長 則安克美 2020(令和2)年12月23日撮影

第45代体育会執行委員会委員長の則安克美と申します。例年であれば筑波大学体育会の各団体の代表者や、先生方が一堂に会し、盛大に行われるはずであった筑波大学体育会納会でしたが、今年は新型コロナウイルスの影響で動画配信という形で行う運びとなりました。これはコロナ禍である現状では他人との接触をなるべく避けて人との関わりを避けることを求められているためです。

しかし同時に、我々体育会執行委員は団体の皆様に信頼していただけるような組織であらねばなりません。信頼を得るのに対面での交流は重要な要素である分、この二律背反な状況を打開できるよう第45代体育会執行委員会一丸となって取り組んでいきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(寄稿/第45代体育会執行委員会委員長 則安克美・エシス3年)

平砂アートムーヴメント

「平砂アートムーヴメント」とは筑波大学の有志学生により企画・運営されている活動です。使われなくなった空間にアートを展開し、制作者と鑑賞者との関わり合いを通して新しい発見をもたらすことで、アート活動の活性化を図ることを目的としており、昨年度は平砂学生宿舎にて美術展が開催されました。

昨年から今年に渡る「平砂アートムーヴメント2020」では、つくば市において有名なスコティッシュパブ「フィンラガン」が「市民がアートに触れる機会を作りたい」という思いのもと、つくばセンター広場に出張開店するのに合わせてアートを通して人々の交流のきっかけを作るために、つくばセンター周辺の空間で様々な活動が展開されています。昨年の10月～12月にはワークショップなどのイベントが行われ、さらに今年の1月～2月には、つくばセンタービルの空き店舗にて募集したアーティストによる公開作品の制作、そして3月には同空き店舗において美術展の開催が予定されています。オンライン化が進み、人との繋がりが薄れる昨今において、身近な場所でアートに触れ、人と交流することの意義は大きいのではないのでしょうか。是非足を運んでいただき、各種SNSやHPでのイベントレポート・活動紹介についてもご覧になってみてください。

(Twitter: <https://twitter.com/hamhamham2019>)
(取材/芸サ連広報局長 高見沢仙美・応理3年)



写真左上から：生大会の様子2020(令和2)年11月1日撮影/ディレクター陣のトークイベント2020(令和2)年10月25日撮影/「ゴブリン」の公開制作2020(令和2)年11月7日撮影/角材を組み上げるパフォーマンス2020(令和2)年11月15日撮影

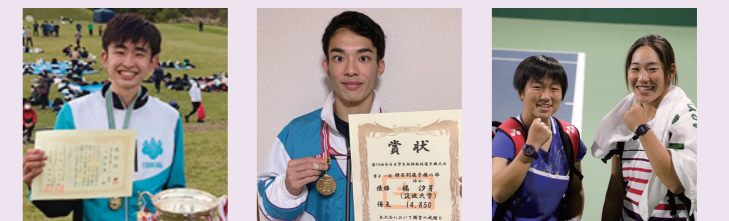
筑波大学体育会納会は、体育会の1年間を締めくくる行事として国際会議場や学生会館等の会場にて多くの来賓の方々を招待し開催されています。

そんな筑波大学体育会納会では、1年間の間に全国大会または国際大会において優秀な成績を収めた団体、個人へ贈られる筑波大学体育会賞の授与式も行われます。

今回は、先に行われました2020年体育会納会において筑波大学体育会賞を個人の部で受賞された皆様をご紹介します。



陸上競技部 浅井さくら
陸上競技部 高良彩花
オリエンテーリング部 佐野響



オリエンテーリング部 小牧弘季
体操競技部 橋汐芽
硬式庭球部 川出莉子 阿部宏美

1年間を振り返って

全学学類・専門学群代表者会議

令和2年度 議長
伊藤暢紀
(情報学群知識情報・図書館学類2年)



令和2年の全代会は1月に行った学生生活における諸規則の改訂に関する審議から活動をスタートしていきなりました。しかし実際には、新型コロナウイルスの流行による、生活様式の変化の中、どのように全代会という学生組織を維持、継承していくかという形になりました。

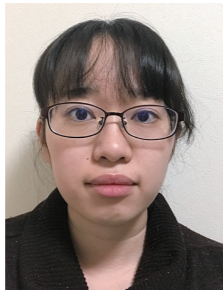
春学期が5月スタートとなる中、4月からオンライン活動の準備を行い、全代会としては今までの体制を崩すことなく、現在まで活動を進めることができたことと議長としては考えています。そして、今後もオンライン活動のメリットを活かしながら、全代会の目的に合わせた活動をしていきたいと思います。

今年度は講義がオンライン授業になり、新入生はつくばに足を踏み入れることなく、大学生活がスタートしていく中、学期の遅れを取り戻すために土曜授業も展開されていきました。この状況において、全代会主導で、授業面での不具合について調査を行い、素早く大学側に結果を共有し、大学側からも教員の方々にアプローチしていただきました。例年通りの活動が難しいなかでも、このように学生から主導的に動き、その取り組みを大学側がさらに学生に還元していくという動きを行えたことは今年度の大きな成果であったと考えております。

また、来年度は総合学域群生が新たに入学してきます。全代会はそれに合わせ、さまざまな変更を進めてきました。今後とも全代会をよろしく願っています。

文化系サークル連合会

第45期運営委員長
佐藤菜月
(人文・文化学群人文学類2年)



平素よりお世話になっております。第45期文化系サークル連合会(以降文サ連)運営委員長の佐藤菜月です。前年度は紫峰会基金を通じた多大なるご協力を賜り、誠にありがとうございました。

前年度は異例続きの一年であり、文サ連および各サークルの活動もまた通常通りとはいかず、試行錯誤の連続となりました。例年とは異なる様々な制限を受けた状況下のため、残念ながら十分な活動が行えなかった団体もあったかとは思いますが、しかしその中でも皆様のご支援・ご理解の下で、オンラインツールの導入やそれらを利用した新たな活動を開始した団体もありました。文サ連内においても、オンラインツールを活用した会議や情報・資料のやりとりといった新たな仕組みを始めていくことができました。至らぬ点や動きが遅れてしまった点も多々あり、完璧な対応ができたということはありませんが、文サ連や各団体での従来の運営について見つめ直す機会となる一年だったのではないのでしょうか。

未だ不安の残る状況ではありますが、その中でも文サ連が活動を続けていくことができたのは、ご寄附いただいた皆様の暖かなご支援・ご協力のおかげです。本当にありがとうございました。今後ともどうぞよろしく願っています。

体育会執行委員会

第44代委員長
高橋七萌
(体育専門学群3年)



平素から大変お世話になっております。第44代体育会執行委員会委員長の高橋七萌と申します。たくさんのご支援とご理解・ご協力のおかげで、私たちはスポーツに打ち込むことができ、本当にありがとうございます。

今年は、新型コロナウイルス感染症の大流行により、例年通りの活動ができませんでした。しかし、その中でも、zoom等を活用し、会議やミーティング、トレーニングでもオンラインで行い、各団体が必死に打開策を見つけて活動してきました。とてもありがたいことに、夏くらいから制限がある中でも徐々に活動ができるようになり、実施されるか分からない大会に向けて、各団体が走り出しました。結果的には、4年生最後の集大成であるインカレが開催されない競技もありましたが、無事に開催、出場できる団体もあり、優秀な成績を残しております。

今年のコロナには、毎日不自由なく、スポーツができることの感謝を再確認させられただけでなく、筑波大学体育会の底力を見せつけることができ、とても良い年になったのではないかと考えております。この状況がいつまで続くかは分かりませんが、このコロナの中でも筑波大学体育会は負けません。むしろ躍進していきますので、ご寄附いただいた皆様、今後ともご支援・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

芸術系サークル連合会

第44期運営委員長
瀬邊風馬
(人文・文化学群日本語・日本文化学類3年)



世界がかつてないほどの混乱に陥り、春休み以降はすべてがこれまで通りにはいかなかった中で大学生活を過ごすこととなりました。入学式も新歓祭も中止され、授業開始も延期され、ようやく始まったと思えばすべてオンライン授業。人と会うこと自体が罪である雰囲気の中で、正常なサークル活動など行えるはずもなく、すべての団体が活動を停止するか、オンラインの限られた活動のみに終始せざるを得なくなりました。

その中で各サークルは、限られた資源のもと、少しでも有意義に活動しようとチャレンジしていました。オンラインを活用した演劇を実施した劇団系サークルの一部をはじめ、ビデオ通話などを駆使して活動を続けていました。とはいえ、例えばピアノを演奏するサークルは、活動場所が立ち入り禁止になったことでピアノが使えなくなるなど、多くの困難があった事実を無視することはできません。今期の芸サ連は、このような困難に対処することに微力ながらお力添えすることで精一杯だったように思います。

日々刻々と変化する感染状況に合わせて、できること、できないことをサークルの皆さんと考えることができたのは、今季ならではの活動だったと言えるでしょう。しばらくはこの困難が続いていきますが、何とか対応していかねばなりません。芸サ連も顔ぶれを新たに、戦い続けていくこととなります。厳しい戦いに打ち勝つためにも、今後ともお力添えいただけますと幸いです。

全学学類・専門学群代表者会議活動紹介

令和2年度の全代会広報委員会は当初から深刻な課題に直面することになりました。全代会座長団の選出が遅れた影響で、例年行っていた1年生向けの技術的な講習会を行うことが出来ませんでした。対面活動の制限もあり、一時は「Campus」の発行そのものが危ぶまれる状況でした。そんな中「活動が停滞するくらいならいっそオンライン形式で発行しよう」という提案が立ち上がり、オンライン形式なら印刷費がかからないため発行回数を自由にでき、制作期間も長くとることができました。委員会メンバーの奮闘により、最終的に2つのオンライン特別号を発行することができました。秋学期には段階的に活動内容を拡大し、新入生に配布するCampus223号は通常通り紙媒体での発行が予定されています。

(寄稿/全代会広報委員会委員長 鈴木泰我・地球2年)

「Campus」新型コロナウイルス感染症特別号 vol.2

教員から見るオンライン授業

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンライン授業を推進する動きが広がっています。筑波大学でも、授業形態をオンライン授業に切り替える動きが広がっています。本誌では、教員から見たオンライン授業の現状と課題、そして、オンライン授業のメリットとデメリットについて、教員からの声を紹介します。

オンライン授業のメリットとデメリット

オンライン授業のメリットは、時間や場所を問わずに授業を受けられることです。また、録音された授業を繰り返し視聴することもできます。一方、デメリットとしては、対面での授業に比べて、学生と教員のコミュニケーションが取りにくいことです。また、自宅での学習環境によっては集中力が持続しにくいという課題もあります。

新しい「大学」の可能性

オンライン授業の普及により、大学の役割や存在意義が問い直されています。従来の大学が果たしてきた役割を、オンライン授業がどのように果たしていくのか、そして、オンライン授業によって、どのような新しい可能性が生まれるのか、について考えていきます。

オンライン形式で発行した「Campus」新型コロナウイルス感染症特別号

課外活動

CLOVER～難民と共に歩むユース団体～

私たちCLOVERは、現在は主にSNSで活動しています。毎週のオンラインミーティングで自分達の知識を増やすための勉強会を行ったり、難民について皆さんに知ってもらえるような記事をリレー形式で投稿していく「難民ウィーク」という企画を行ったりと活動してきました。現在は、2月に予定している「優しい日本語」というテーマでのワークショップの準備を進めています。私たちの活動の主軸である対面での活動が早く再開できることを願いながら、今だからこそできる活動に取り組んでいます。

(寄稿/CLOVER～難民と共に歩むユース団体～副代表 谷口萌・社会2年)



活動自粛前のミーティングの様子 2020(令和2)年2月15日撮影

ギター・マンドリン部

ギター・マンドリン部ではSNSを通じた情報発信に加え、オンライン合奏や新歓活動を精力的に行いました。Twitterでは昨年度の活動・合奏の様子、楽器紹介等も投稿しています。どれも部員達がオンライン授業の合間を縫って仕上げた力作なので、ぜひご覧ください。現在は活動自粛の状況ですが、その日々の中、音楽の醍醐味はやはり隣人の音と共鳴し楽しむことなのだと感じています。再び合奏できる日を心待ちにしつつ、オンラインでの活動を引き続き行っていきます。

(寄稿/ギター・マンドリン部 沓澤紗奈・生物3年)



YouTubeに投稿したオンライン合奏の様子 2020(令和2)年5月15日撮影

ワンダーフォーゲルクラブ

ワンダーフォーゲルクラブでは、ガイドラインに沿いつつも最大限の活動を行う努力をしてきました。ミーティングはオンライン主体で行い、勉強会は確認テストを設けるなどして対面できない分の不足を補う工夫をしています。10月～12月は活動自粛が緩和され、日帰り山行を行うことができました。新入部員にとっては初の山行でしたが、山登りの装備や知識などの継承を行うことが多少なりともできたのは良かったと思います。トレーニングに関しては各自目標を持って積極的に行っています。新入部員も意欲的に活動しており、2021年に向けて士気が高い様子です。冬山に向けてのトレーニングも始まっており、安全登山に向けてクラブ員全体で意識を共有していく所存です。

(寄稿/ワンダーフォーゲルクラブ主務 若林奏・地球3年)



大菩薩嶺を行く 2020(令和2)年11月7日撮影

医学卓球部

コロナ禍での長期の活動自粛。毎年8月に開催される医学の中で最大の大会「東医体」をはじめとする多くの大会が中止となり、少なからず部員のモチベーションが下がってしまいました。特に6年生にとっては集大成をぶつける場がなくなり、もどかしい気持ちになっていると思います。そんな中少しでもモチベーションや体力を維持しようと、医学卓球部では[オンライントレーニング会]を行いました。これはteamsを用い、部員同士がメニューを持ち寄って筋トレや体幹トレーニング、有酸素運動を行うというものです。健康にもよいですし、部員同士のコミュニケーションの場にもなりました。

現時点ではまだ部活は再開出来ていませんが、また楽しく卓球ができる日を楽しみに待っています。(寄稿/医学卓球部主将 中村洋介・医学3年)



活動自粛前の練習の様子 2020(令和2)年1月25日撮影

留学情報

グローバル・コモンス機構
学生部 学生交流課

本学は開学以来、「開かれた大学」という理念のもとに、年間4,000人以上の留学生等を受け入れ、2,300人以上の学生を海外へ派遣するなど、国際交流を積極的に促進してきました。また、本学のミッションとして「地球規模課題の解決に向けた知の創造とそれを牽引するグローバル人材の育成」を掲げており、一層のグローバル化が望まれております。しかしながら、2020年3月に、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、外務省の発出する危険情報レベルが世界的に2もしくは3に引き上げられて以降現在まで、本学では、学生の留学を認めておりません。本学の「海外での危機発生時における学生及び教職員の渡航等に関する指針」では、学生の安全と安心が保証されることを第一としており、学生の派遣・渡航は危険情報レベル2以上の場合、取り止めることとなっています。

この世界的流行はいつ収束するのか、見通しが立たない中でも留学をあきらめず努力をしている学生が多くいます。収束後、本学ではどのような留学が可能なのか、留学制度について簡単にご紹介します。

○留学とは・・・留学先の大学等の授業を履修することが学生にとって教育上有益であると、当該教育組織が判断した場合に認められるもので、その期間は修業年限及び在学年限に算入することができます。

【奨学金の種類】

○筑波大学海外留学支援事業 はばたけ！筑大生

①国際交流協定校留学支援プログラム

本学と協定校との協定に基づき留学をする者を対象に、滞在費の一部を支援

②キャンパスインキャンパス(CiC)等支援プログラム

CiCパートナー大学との交換留学を行う学生及びダブルディグリープログラム、ジョイントディグリープログラム等へ参加する学生を対象に、旅費・滞在費の一部を支援

③海外武者修行支援プログラム

任意結成された学生グループを対象に、企画内容に応じて旅費の一部を支援

④海外学会等参加支援プログラム

海外での国際学会、シンポジウム等で研究発表を行う者を対象に、旅費の一部を支援

⑤語学研修・海外研修参加支援プログラム

支援対象として採用された本学内組織主催又は共催による海外研修プログラムに参加する者を対象に、旅費の一部を支援

○日本学生支援機構（JASSO）海外留学支援制度（協定派遣）

JASSOに採択された教育組織等が実施するプログラムにて、8日以上1年以内の期間で協定校に派遣される学生に対し、旅費・滞在費の一部を支援

本学が目指すグローバル人材は、「確固たるアイデンティティと十分な専門性を持ちながら、多様性を生かす柔軟性を発揮し、あらゆる国、組織や分野の壁を越え、協力関係を構築し、グローバルな活動を牽引できる人材」です。新型コロナウイルス感染症による影響は多大であり、開学以来、これほど学生の国際交流の先行きが見えないことはなかったでしょう。しかし、今すぐには実現できずとも、在学中に国際交流プログラムや長期留学にチャレンジして、グローバル社会に貢献できる能力を身に付けていただきたいという思いは変わりません。そのためのサポートを引き続き行っていきます。

○交換留学・・・本学と学生交流協定を結んでいる海外の大学(以下、「協定校」)に留学することを「交換留学」と呼びます。授業料相互不徴収の取り決めがある協定校では、留学先大学への授業料は不徴収となるメリットがあります。

○Campus-in-Campus(CiC)・・・本学では、キャンパス機能を共有し、国境や機関の壁を越えて学生・教職員がより自由に交流できるCiC協定を世界各地の10校と締結しています。協定校と同様に授業料相互不徴収の取り決めがあります。

○短期海外研修・・・語学研修や専門講義の受講など、教育組織等が実施する多様な海外研修プログラムに参加できます。留学期間は1週間から1か月程度のもので多く、長期留学の契機となる学生も多くいます。

本学には留学促進のための奨学金制度があり、海外留学支援事業(はばたけ！筑大生)では、例年12月と4月に公募を実施しています。2021(令和3)年度に渡航するための12月期公募については、渡航時期までに留学先地域の危険情報レベルが1以下になっていることや安心して留学生在活を送れる環境が整備・維持されること等を条件に実施されました。今後の募集等についても、感染症拡大の世界的状況に応じて判断されることとなります。

大学院進学報告



生命環境学群 生物資源学類 4年 神永優作

本稿では私が大学院に進学することとした理由とともに、試験を受けるにあたってについてお話しします。

■進学予定の学術院／研究群／学位プログラム

理工情報生命学術院／生命地球科学研究群／生物資源科学学位プログラム

■大学院進学理由

育種学という学問をご存知でしょうか。最近話題となっているゲノム編集も新しい育種方法の一種で、育種学とは文字通り種(品種)を育成し、より人間が望む栽培作物を作出することを目的とした学問です。私は育種学が遺伝学の知識や育種技術を基盤に様々な農業上の問題にアプローチできることに魅力を感じ、育種学を専攻することに決めました。私が大学院への進学を決めた理由としてこの分野に興味があることと、自分自身のスキルや教養をレベルアップしたいからということが挙げられます。

大学院では現在も材料としているソバについて耐湿性(過湿状態でも植物の生育に障害が起きない性質)について研究を進め、より現場で応用できる形につなげたいと考えています。

■試験を受けるにあたって

今年度は新型コロナウイルスの影響で大学院試験や必要な外部語学試験が予定通りに行われませんでした。そのような先行きが不透明な状況で大きな試験の準備を行うことは大変で常に無事に試験を受けられるのだろうかという不安が付きまといました。そんな中自分の助けとなったのは所属している鹿島神流武道部のオンラインでの稽古やコミュニケーションです。コロナ禍で物理的に孤立している中、所属しているコミュニティの価値を再確認いたしました。このような助けもあって大学院試験や外部語学試験への準備も十分に行うことができ、試験の日程や実施予定が確定してからは安心して試験を受ける事が出来ました。進学後も新型コロナウイルスの影響があると思いますが、適切な用意を行い自律して積極的に大学院での学びや社会人に向けての準備を行っていきたくと考えています。



研究対象のソバを育てている圃場の様子 2020(令和2)年9月撮影



情報学群 知識情報・図書館学類 4年 山岸素子

本稿では私が大学院に進学することとした理由とともに、試験を受けるにあたって、研究活動を通して学んだことについてお話しします。

■進学予定の学術院／研究群／学位プログラム

人間総合科学学術院／人間総合科学研究群／情報学学位プログラム

■大学院進学理由

司書という職業あるいは資格にどのような印象を持たれているでしょうか。図書館のカウンターで貸出しをしたりしていて、本が好きな人だろう、という方が多いかもしれません。

たしかに私が司書に親しみを持ったこの学類に入学したきっかけは読書が好きであることですが、実際には蔵書を検索するシステムの構築や行政・法律なども幅広く学びました。そのなかで私は実務に近いものよりも図書館の建築的要素や現代の図書館の在り方に興味を持って、研究を継続したいと思い、進学を選びました。その過程では、活発な研究室の活動と国際学会に参加した経験が大きな刺激となりました。

■試験を受けるにあたって

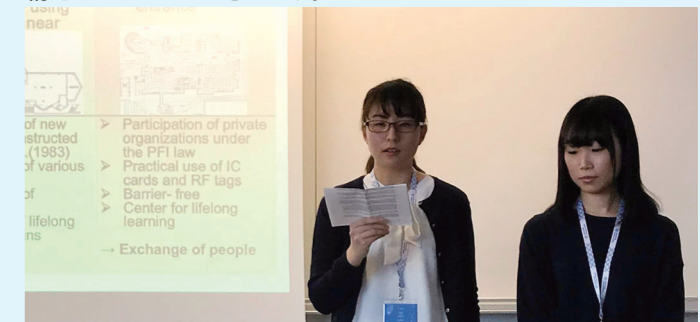
今年度は新型コロナウイルスの影響で試験日程さえも不透明な状況でした。最終的に試験日は二ヶ月近く延期され、オンラインでの面接となりました。しかし、延期されたことで自分の研究テーマがしっかりと定まった状態で準備することができました。また、通常なら何時間前にも集合となりますが、オンラインでの面接は直前まで自分の緊張をほぐすことができ、私にとってはメリットが大きかったです。

試験準備は、研究室の先生・先輩方や他の研究室の先生にも見ていただいて、徹底的に対策しました。そうしたやり取りも基本的にはオンラインでしたが、必要な際には研究室に行き、休憩時のコミュニケーションや励ましによって精神的にも支えられました。些細な心理的負担の軽減はやはりオンラインでは難しい点だと思えます。

■研究活動を通して学んだこと

研究はひとりではできないということと自分を強く持つことです。卒業研究や進学後の研究計画など、私にとってははじめての研究活動であるなかで研究室の先生・先輩方の存在は非常に大きいものでした。私は万全の準備をしないと不安になってしまうのですが、完璧な研究はなく、唯一の正解もありません。常に不安と闘う状況で、ベストではなくてもベターであれば先に進むというのも大切だと思いました。

同時に、多くのアドバイスをすべて飲み込もうとすると道に迷います。自分の研究は自分のものだという意識を維持していなければなりません。これでいいのかと問い続けながらも、自分のものだと胸を張っていることは難しいですが、研究だけでなく何事においても聞く耳を持ちながら揺るがない自分を築けるようにこれからも精進していきたいと思えます。



国際学会発表の様子 2020(令和2)年1月22日撮影

課外活動団体一覧

2021年1月現在

文化系サークル連合会	
団体名	書道部
電気通信研究会(旧アマチュア無線クラブ)	吹奏楽団
E.S.S.	男声合唱団メンネルコール
池坊華道部	津軽三味線倶楽部無絃塾
囲碁部	筑波音楽協会
宇宙工学研究会	筑波能・狂言研究会
SF研究会アルビレオ	つくばフォーク村
園芸クラブ	THK筑波放送協会
海洋研究会	ときめき太鼓塾
歌留多部	人形劇団NEU
斬桐舞	ジャズ楽団 Neopolis BIGBAND
CLOVER ~難民と共に歩むユース団体~	ピアノ愛好会
現代視覚文化研究会	ViCC-映画をつくる会-
茶道同好会	フォルクローレ愛好会
茶道部和敬清寂社	競技ダンスサークル舞研
社会福祉研究会	ブロックプレーテ同好会
写真部さくら組	邦楽部
手話サークル	ミュージカル集団ESSASSA
将棋部	落語研究会
図画団	
ストーリーテリング研究会	
T.A.S.C.	
筑波大鉄研「旅と鉄道の会」	
つくば鳥人間の会	
筑波文学の会	
天文研究会	
TOJO K-ON	
ねっしー・自然教育研究会	
文芸部	
マジシャンズクラブ	
漫画研究会	
野外活動クラブ	
野生動物研究会	
歴史探訪会	
Amusement Creators	
芸術系サークル連合会	
団体名	書道部
アカペラサークルDoo-Wop	柔道部
E.L.L.(筑波軽音楽協会)	準硬式野球部
応援部WINS	少林寺拳法部
合唱団むくどり	水泳部
管弦楽団	スキー部
ギター・マンドリン部	漕艇部
劇団筑波小劇場	男子ソフトボール部
混声合唱団	女子ソフトボール部
ジャグリングサークルSheep	体操部
写真部	体操競技部
JAZZ愛好会	卓球部
	ダンス部

トライアスロン部
軟式庭球部
馬術部
男子バスケットボール部
女子バスケットボール部
バドミントン部
男子バレーボール部
女子バレーボール部
男子ハンドボール部
女子ハンドボール部
フィールドホッケー部
ライフセービング部
ラグビー部
男子ラクロス部
陸上競技部
オリエンテーリング部
女子ラクロス部

同好会

剣道同好会
サッカー同好会
バスケットボール同好会
バドミントン同好会
バレーボール同好会
フェアリースキークラブ
ワンダーフォーゲルクラブ
トランポリン同好会
アルティメット同好会 INVER HOUSE

医学

医学アイスホッケー部
医学弓道部
医学剣道部
医学硬式庭球部
医学ゴルフ部
医学サッカー部
医学準硬式野球部
医学水泳部
医学スキー部
医学ソフトテニス部
医学卓球部
医学バスケットボール部
医学バドミントン部
医学バレーボール部
医学ハンドボール部
医学ヨット部
医学ラグビー部
医学陸上競技部

学生相談室から

総合相談窓口 029-853-8430
学生相談受付 029-853-2415

「カルト」にはご用心を — 学生のみならず保護者の方々も — 心理カウンセラー 平野 学

新型コロナが問題になって早1年。せつかくの大学生活なのに思うようにいかず、何かと残念な想いを抱きますが、ただ健康と命あっての人生、色々工夫しながら乗り切っていきたいものです。

さて学生としてもう1つ注意すべきことに「カルト」の問題があります。これは強い信念のもとに熱狂的に実践し、メンバーに人権侵害を行う団体であり、宗教やマルチ商法等の形で、大学生は何かと狙われやすいですね。筑波大学も例外ではありません。自分探しや成長したい想いを逆手にとって、また人生経験の少なさや金欠等につけこんでくる人々も…。コロナで対面での勧誘活動は自粛気味でも、ボランティアやサークルをはじめ様々な形で、特にSNSを駆使して正体を隠した形での勧誘もよくなされています。ぜひご用心を!と言ってもなかなか難しいところで、変な印象を与えずに忍び寄ってくることもあります。まさに「カルトに入る人はいない。気が付くとそこはカルトだった」(アメリカの社会心理学者、ジンバルド)は至言です。

保護者の方々にとっては、お子さんの様子等、特に親元を離れたらしているのわがりにくいですが、次のようなことがあると要注意でしょうね。

令和2年度 筑波大学卒業式のご案内

- 日時 令和3年3月25日(木)
- 会場 筑波大学 大会会館(講堂ほか)
- 【第1回】9:30~10:15(開場:8:50)
対象組織:人文・文化学群、社会・国際学群、人間学群、理工学群、理療科教員養成施設
- 【第2回】11:30~12:15(開場:10:50)
対象組織:生命環境学群、情報学群、医学群、体育専門学群、芸術専門学群

令和2年度 筑波大学大学院学位記授与式のご案内

- 日時 令和3年3月25日(木)
- 会場 筑波大学 大会会館(講堂ほか)
- 【第1回】13:30~14:15(開場:12:50)
対象組織:教育研究科、人文社会科学研究科、ビジネス科学研究科、数理物質科学研究科、システム情報工学研究科
- 【第2回】15:30~16:15(開場:14:50)
対象組織:生命環境科学研究科、人間総合科学研究科、図書館情報メディア研究科、グローバル教育院

卒業式・大学院学位記授与式、入学式・大学院入学式 共通連絡事項

*式典の出席者は卒業生・修了生のみ、新入生のみとさせていただきます。
*新型コロナウイルス感染症対策として、ご家族等のみなさまは、ライブ配信をご覧ください、お願い申し上げます。
*開催方法等については、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ変更する可能性があります。最新情報や詳細については、[筑波大学基幹サイト\(ホームページ\)](https://www.tsukuba.ac.jp/campuslife/calendar-ceremony/)にてご確認ください。
<https://www.tsukuba.ac.jp/campuslife/calendar-ceremony/>
問い合わせ先:筑波大学総務部総務課 029-853-2025(平日9:00-17:00)

桐の葉日記

私は今年で成人を迎えるため本来であれば1月は地元の成人式に参加する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて成人式が延期となってしまいました。前撮りはすでに済ませているものの、小中学校以来会っていない友達との久々の再会や、再び着物を着ることができる貴重な機会である成人式を楽しみにしていたので、延期になったということを知ったときは残念でした。しかし中止になったわけではないので、このコロナ禍が落ち着いて開催できることを祈りつつ、今は自分にできる対策をしっかりして過ごしたいと思います。

コロナの影響によって来年度の学生生活もどうなるか先が読めない状況ですが、そのときそのときでできることを考えつつ、楽しみながら活動していきたいと思います。
(文責/全代会広報委員 村松真緒・社会2年)

お詫びと訂正

前号18号2面「学生緊急経済支援金の支給について」冒頭1行目「護者の収入減による仕送りの減少」としましたが、正しくは「保護者の収入減による仕送りの減少」の誤りでした。お詫びして訂正します。

(例)親や家族への接し方が変わった(すっかり距離をとる場合もあれば、逆に過剰な感謝を示す場合も)、帰宅が遅くなったり休日もよく出かける、イベント帰りではテンションが高い、一緒に住みたい人がいると言う、好みが変わった、部屋に宗教書が増えてきた etc.

また学生本人にしても、もし自分が関係している団体のことが気になったら、日本脱カルト協会の「JSCPR集団健康度チェックリスト」を試してもらえたらと思います。きつと役に立つことでしょう。

学生時代は人生の中でもとても大切なひとときです。こうした「カルト」のために、貴重な時間やエネルギー、お金、そして様々な出会いの機会等、奪われないようにしたいですね。そして何か気になったり、少し変だなと思うことがあれば、学生生活課や総合相談窓口、学生相談室まで、ご一報いただけると幸いです。

「カルトは近くに」のQRコード



令和3年度 筑波大学入学式のご案内

- 日時 令和3年4月5日(月)
- 会場 筑波大学 大会会館(講堂ほか)
- 【第1回】9:30~9:55(開場:8:50)
対象組織:人文・文化学群、社会・国際学群、生命環境学群、理工学群、情報学群、理療科教員養成施設
- 【第2回】11:30~11:55(開場:10:50)
対象組織:人間学群、医学群、体育専門学群、芸術専門学群、総合学域群

令和3年度 筑波大学大学院入学式のご案内

- 日時 令和3年4月5日(月)
- 会場 筑波大学 大会会館(講堂ほか)
- 【第1回】13:30~13:55(開場:12:50)
対象組織:人文社会ビジネス科学学術院、人間総合科学学術院
- 【第2回】15:30~15:55(開場:14:50)
対象組織:理工情報生命学術院

※式の時間については予定時刻となっております。進行の都合上、変更となる場合がございますので、ご了承ください。

紫峰の風 第19号 2021年2月発行
発行 事業開発推進室
編集 学生部学生生活課
学生広報会議(飯村玲菜・教育2年、石倉鈴太郎・医療2年、伊藤香菜子・生物2年、沓澤紗奈・生物3年、高見沢仙美・応理3年、竹森大貴・人文2年、村松真緒・社会2年、中山皓太・創成2年)
広報部会(稲葉彩月・教育4年、河原井かれん・芸専3年、黒川真臣・生命環境5年、山岸素子・知識4年)
タイトルロゴデザイン 塚本真理(芸術2016年度卒)
〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1
電話:029-853-5886 E-mail: gk.shihokai@un.tsukuba.ac.jp
筑波大学紫峰会基金WEBサイト
<https://futureship.sec.tsukuba.ac.jp/shihokai/>

筑波大学 紫峰会基金
University of Tsukuba Shihokai fund

紫峰の風送付先変更の連絡はこちら
E-mail: renkei@un.tsukuba.ac.jp 電話: 029-853-2030